

茨城県における梅毒患者の実態調査に関する研究について

茨城県衛生研究所¹⁾、常磐大学²⁾

○梅澤美穂¹⁾、熊本有美¹⁾、後藤慶子¹⁾、栗田順子²⁾、永田紀子¹⁾

【目的】茨城県の梅毒患者は、全国と同様に近年急激に増加している。しかし、患者発生届から得られる情報は限られていることから、詳細な感染経路及び患者急増の背景等は明らかになっていない。そこで、県内の梅毒患者の感染経路等を詳細に把握することにより、梅毒等の性感染症の検査受診の促進及び効果的な予防啓発に寄与することを目的として本調査を実施したので報告する。

【方法】感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により届出があった梅毒患者について、届出のあった医師へ「患者の基本情報」、「過去1年間の性交渉状況」、「性感染症の罹患歴」及び「医療機関受診の理由」等をアンケート調査し、アンケート及び発生届の内容を用いて解析を行った。

【結果】平成30年10月から令和2年3月31日までに83例のアンケート調査票の解析を行った。性別は、男性55例、女性28例であり、年齢の中央値は、男性44.0歳、女性25.5歳であった。職業は、男女ともに会社員が最も多かった。また、女性のうち、風俗等を職業としている症例が5例(17.9%)あった。性交渉の相手との関係性については、男性異性間は「風俗店」、男性同性間は「インターネット・SNS等で知り合ったその場限りの相手」、女性は「特定のパートナー」が最も多かった。過去の性感染症罹患歴については、19例(23.2%)で罹患歴があった。医療機関受診の理由(無症候)は、人間ドック、妊婦健診、術前検査等であった。

【考察】本調査により、男性は風俗等の利用により梅毒に感染し、その男性パートナーから女性が感染している例が多いことが示唆されたことから、風俗関係者等への啓発の強化が必要と考えられる。また、若年層の女性患者の増加により、先天梅毒が危惧されるため、若年層を対象とした普及啓発を行うことが重要である。今後も梅毒の発生状況を注視していくとともに、これらの予防啓発を強化していきたい。